



佐藤 忠男 議員
(明和会)

人口減少見通しと確保対策 定住人口確保は総合的施策で

Q 本市の人口見通しによると、平成35年には現状の約10万1000人から8万9000人と、1万2000人も減少すると予測されている。特に、年少人口(0歳から14歳まで)と生産年齢人口(15歳から64歳まで)の減少が著しく、市の存亡にかかわる重要な課題である。これに対し、市は「定住人口増加対策は非常に難しく、今は観光などの交流人口拡大に重点をおく」として、まちづくり総合計画には、定住人口の確保対策が見えない。交流人口対策と併せて定住人口の確保対策を総合計画にしっかりと位置づけ、部局横断で取り組むべきと思うが、その見解を伺う。

A **【市長】** 定住人口確保対策は、特効薬的な個別の施策事業を取り入れていくような方法では非常に困難と考えている。確かな効果が期待できるといふ点では、暮らしやすさにつながる総合的、かつ、長期的なまちづくりを展開していくことが効果的である。従って、手法としては、別途の戦略的構想の打ち出しや総合計画全体の推進による方法があると考えている。「花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン」では、市民生活に直結する「しごと」「暮らし」「人づくり」、そして、その基盤となる「地域づくり」「行政経営」の5分野に区分して、それぞれの分野ごとに「目指す姿」に向けて、政策・施策を展開していく。しごと分野では「仕事いっぱい、雇用がいっぱい、活力に満ちたまち」、暮らし分野では「自然豊かな地域で共に支え、誰もが安心して、いきいきと快適に暮らすまち」、人づくり分野では「郷土を愛し、丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育つまち」を掲げている。



定住人口確保のため総合的で長期的なまちづくりが望まれている



若柳 良明 議員
(平和環境市民クラブ)

臨時・非常勤職員の処遇改善 保育士等について見直し予定

Q 臨時補助員・非常勤職員の平成25年4月1日現在の職種ごとの人数について伺う。
また、臨時補助員・非常勤職員の賃金引き上げ計画について伺う。

A **【総務部長】** 平成25年4月1日現在、臨時補助員の総数は176人で、一般事務職系89人、保育士・幼稚園教諭41人、医療系10人である。非常勤職員の総数は135人で、一般事務系89人、保育士・幼稚園教諭11人、労務9人、医療系6人である。
臨時補助員・非常勤職員の処遇改善計画については、現時点では特に全体的な計画はない。しかし、保育需要の高まりから、乳幼児保育等の業務の困難度に加え、保育士不足の現状を考慮し、保育士・幼稚園教諭に関する賃金基準の見直しを予定している。



保育士不足の現状から賃金基準の見直しを検討

市職員の賃金実態は

Q 県内他市町村と比較して本市の給与が低いのは、級別標準な理由と分析しているか。
また、給与水準が低いのは、級別標準職務表の定め方や運用の違いも要因のひとつではないかと考えるが、級別標準

A **【総務部長】** 職員の給与月額の水準を示すひとつの目安として、国家公務員との比較であるラスパイルズ指数がある。本市の数値は平成24年4月時点の数値で99.1であり、県内13市中13番目であるが、手当等を含めた平均給与月額額は13市中6番目である。他市との比較分析は行っていない。級別職務区分表は、国に準じ合併時に協議し定められ給与水準に多大な影響を与えるものではない。見直しについては公務員制度改正などの特段の変化がない状況では考えていない。



本館 憲一 議員
(花巻クラブ)

地元産木材活用の後押しを 林業振興の好機として対応を検討

Q 東日本大震災の津波で被災した合板製造大手の会社が、地元での再建を断念し、北上市の後藤野工業団地に工場を新設することになっている。生産規模は、年間10万立方メートルで、約300万枚の合板を製造すると言われている。震災で行き場を失っていた県産木材の供給先が復活し、林業振興が期待されている。合板工場への地元産木材の供給活用を本市として後押しするべきと思うがどうか伺う。

A **【農林水産部長】** 合板工場の進出により、今までの製材用の供給に加え、あまり有効活用されてこなかった木材の新たな需要が見込まれる。さらには、木質バイオマス発電施設など、燃料材としての需要も今後見込まれるものと予測している。市としては、これらを地域の林業振興の好機ととらえ、市有林の撤出間伐促進に加え、民有林の高上げ補助の拡充や林業機械導入への支援、基幹林道の整備を検討していかねばならないと考えている。

花巻中央図書館整備は

Q 花巻中央図書館の整備について、今後のスケジュールを伺う。



地元産木材の供給活用が望まれる(岩手県森林組合盛岡木材流通センター)

A **【まちづくり部長】** 平成25年10月に花巻中央図書館こども複合施設基本設計業務委託業者選考委員会を設置し、業者選定の手続きに入った。今後は、26年1月に設計業者を決定し、4月から5月にかけて基本計画案等についてパブリックコメントなど市民参画の手法を取り入れて基本計画および基本設計をまとめる。また、県医療局では、平成25年度に土壌調査を実施し、26年度には旧県立花巻厚生病院の建物解体に向け取り組んでいくと伺っており、同年度中に用地取得できるように引き続き県との協議を進める。



中村 初彦 議員
(明和会)

酒造好適米の経緯と成果は 需要動向を見極め対応する

Q 大吟醸向け酒造好適米「結(ゆい)の香(か)」が開発され、昨年に紫波町と奥州市で栽培された。県内の酒造会社6社が醸造し、平成25年3月に限定発売された。この経緯と成果をどのように評価しているのか伺う。

A **【農林水産部長】** 県は、これまで「酒造好適米品種の「吟ぎんが」や「ぎんおとめ」などを開発してきたが、岩手県酒造組合の要望を受け大吟醸酒向けの新品種を試験栽培、平成25年3月に「結の香」という名称を発表、品種登録と商標登録が順次行われている。新品種育成には、長い年月と技術が必要であり、「結の香」の誕生は喜ばしく、今後酒造好適米に限らず有望な県オリジナル品種の開発に期待している。市としては、当面「吟ぎんが」の生産に努め、「結の香」については、今後の需要動向を見極めながら対応を検討していく。

国・県への要望実現は

Q 岩手県知事に、国土交通省所管5件、県環境生活部1件を要望したがその見通しを伺う。

A **【市長】** 県南広域振興局長から県の取り組みについての回答



薬師堂川排水樋門(石鳥谷町地内)

があり、「実現に向けて努力しているもの」は、薬師堂川排水樋門への排水ポンプの排水経路確保や湯本地内の産業廃棄物の早期撤去など8件、「当面は実現が難しいもの」は、主要地方道への歩道整備促進など2件となっている。「実現に向けて努力しているもの」については、市民生活の安心安全を確保するため早急に解決すべく、強力に要望していく。また、「当面は実現が難しいもの」についても、危険性が極めて高い箇所であり、地域からも早期整備を要望されており、引き続き要望していく。

市政「い」が聞きたい
いっぱい質問

市政「い」が聞きたい
いっぱい質問